

磐田北

「進撃の11人」



昨秋に11人で25年ぶり県大会出場 「パッション&シンプル」で快進撃

磐田北は、昨秋に11人の戦いで25年ぶりの県大会出場を果たした。情熱を秘めた選手たちは「パッション&シンプル」をテーマに夏の勝利を目指していく。(取材・栗山司)

■秋は連続の逆転勝利!

選手11人で臨んだ昨秋。ミラクルの連続で、25年ぶりとなる県大会出場を果たした。

県予選代表決定戦では浜松商を相手に、7回に一挙5点を奪って逆転勝ち。続く上位決定戦(対掛川工)も最終回に8点を挙げ、試合をひっくり返した。「どんな相手でも、10回やれば1回は勝てる要素をつくる。そう言い聞かせてやっています」と語るのは、就任4年目の竹下裕和監督だ。

2022年の赴任当初から部員不足に苦しんできた。初年度の夏は9人ぎりぎりまで戦い、その後は

他校との連合チームで大会に出場したこともある。

■下位打線からチャンスを作る

新3年生は8人。掛川北中出身の5人を含め、「人間性を大事にする竹下先生のもとでやろう」と集まってきた選手たちだ。

1年時から試合に出場し、経験を積んできた世代が中心となって迎えた昨秋。竹下監督は「経験というストロングポイントを最大限に生かし、普通に戦おう」と大会に臨んだ。ここでいう「普通」とは、相手と対等に渡り合うこと。「人数が少ないから勝てない」という意識を持たず、その舞台上で堂々と立つことを選手たちに求め続けてきた。県大会は初戦で敗れたものの、確かな歴史を刻んだ。

チームの中心となるのはエースで主将を務める渡邊将斗(3年=投手)だ。秋の公式戦はすべて一人で投げ抜き、粘りの投球で勝利に導いた。打線は竹下監督が「自分の中での秋のMVP」と褒め称える下位打線がチャンスを作り、勝負強さのあるトップバッターの山崎蒔斗(3年=遊撃

手)や、3番の渡邊が選ぶパターンを確立した。

■アイデアを凝らした練習

練習環境は決して恵まれていない。学校のグラウンドは内野ほどのスペースしか使用できず、外野方向への打撃やシートノックは不可能だ。そのため基礎練習に多くの時間を費やし、週に数度、近隣の球場を借りた際に実践的な動きを確認している。だからこそ、いかに工夫するかが求められる。例えば、ネットを囲い込んでの打撃練習ではテニスボールを使用し、ミートの際にボールをとらえる感覚を養っている。

さらにこの冬は、県大会で感じた相手チームとのフィジカルの差を埋めようとトレーニングを重ねてきた。渡邊は春に向けてのチーム力向上に手応えを掴んでいる。「自分たちが取り組んできた方向性は間違っていないと思います。オフ期間はスケールアップしようと練習してきました」。

チームのテーマは「パッション&シンプル」。「熱い心を持ちながら、物事をシンプルに考えてほしい」という竹下監督の思いが込められている。この春は県大会ベスト8、そして夏は15年ぶりの1勝から、その先の快進撃を狙う。

Pick Up!

山崎蒔斗
(3年=遊撃手)

攻守のキーマンだ。小学生の頃から得意としてきた守備は動ける範囲が広く、安打性の当たりをアウトに変える。打線では1番を任せられ、チャンスで強さを発揮。コンバクトに打ち返す技術が光る。「自分の活躍で勝てたと言われるくらいの選手になりたい」と、練習に力が入る。

がんばれ! マネージャー

中山愛莉(3年) 川島陽和(3年) 杉本桜美(3年) 沖菜奈美(3年)

竹下監督が「大事な戦力」と信頼を寄せる4人のマネージャー。個人練習ではノッカーを務めることもある。入部当初はバットに当たらず苦労したが、練習を重ねる中で力強い打球を飛ばせるようになり、守備力向上をサポート。「大会では練習でやってきたことを出してほしい」と選手にエールを送る。

主将のチーム分析

渡邊将斗 主将
(3年=投手)

打力3

投手力4

元気5

機動力3

守備力4

元気を武器に 全員で野球を楽しむ

「下位打線が粘って出塁し、上位が選ぶのが得点パターンです。守備はキャッチボールからこだわって練習しています。勢いに乗ると、全員が楽しめるような雰囲気になる、元気のあるチームです」



磐田北・竹下裕和監督 選手たちと全力で戦っていききたい

「昨年の秋は、それまでの経験を生かしてよく戦ってくれました。ただ、県大会で感じたのは基礎力の不安定さでした。冬の期間は基礎力のレベルアップに励んできました。春夏も、選手たちと全力で戦っていききたいです」

1981年静岡県生まれ。磐田南一横浜国大。大学時代は1年秋から内野手のレギュラーとして活躍。卒業後、浜松南のコーチを経て、浜松城北工と浜松江之島で監督を務める。2022年より磐田北の監督。

磐田北高校

【住所】静岡県磐田市見付2031-2 【創立】1909年 【甲子園歴】なし
1909年、磐田郡立実践高等女学校として創立。1949年から現校名となる。1999年より男女共学となり、野球部が誕生。普通科と福祉科が設置されている。陸上競技部や箏部が全国大会で入賞するなど部活動も活発だ。校訓は「優しく、遅しく、誠実に」。